



電線を伝って電力が都市部に供給されるまでのロスが大きいですが、ミネアポリスでは都市の近くで発電を行っているため、非常に効率的な方法だと感じられた。

実際に川面近くまで降り立ってみると、中規模の船、レジャーボート、マリッジットなどの往来が激しい。アウトドアスポーツが浸透しており、カヌーで川下りをする人々の姿も目にすることができた。

そこで気になるのが、ダムによって遮られた川でどのように船が航行するかということである。

ダムの横には「ロック」と呼ばれる、上流部・下流部の2箇所水門のある区間が設けられている。船がロックの中に入ると、水位を調節し、川の水が必要以上に流れることなく船を航行させることができるのである。この方式はパナマ運河などで採用されているものと同じ仕組みである。例えば、上流側から船が来た場合、ロックの中に注水し、上流側の水位と同じ高さまで上げるのである。そして、下流側のゲートは閉めたまま、上流側のゲートを開ける。これにより、船は自然にロック内に入ることができる。次に上流側のゲートを閉め、下流側の水位までロック内の水を排水していく。水位が同じになったところで下流側のゲートを開け、船が出て行くのである。この間に要する時間は5分以上である。どんなに小さな船が来ても、この作業は行われる。例えば、一艘のカヌーのためであってもロックは作動される。しかも、この作業に対して、通行者は一切費用を支払う必要がない。無料でこの大変な作業を行ってもらえるわけである。船の往来が激しい時間帯には、ロックは常に動き続けることになるそうである。

昨年9月の同時多発テロ以後、ロックは軍の管轄になっている。案内をしてくれた方によると、以前よりも警備が厳重になったそうである。このことから、水運がアメリカ合衆国にとっていかに重要なものかが感じられるであろう。

